



www.jcf.or.jp

シクリスムエコーNo.103 2003年11月号

表紙：第34回全日本室内自転車競技選手権	1	2003 ツール・ド・チャイナ	14
JAPAN CUP 2003	2	競技大会結果	15
第34回全日本室内自転車競技選手権	5	北津留 翼 WCCに入学	16
2003年ロード世界選手権	6	日本体育協会公認C級スポート指導員養成講習会	16
第58回ニューわかふじ国民体育大会	8	2003年世界室内自転車競技大会日本選手団	16
2003年高雄国際トラックレース	11	2003日韓学生対抗自転車競技大会日本選手団	16
2003年チヨンジユMBC国際ジュニアロードレース	12	連盟の動き	16



見事ゴールスプリントを制したバルベロー



Japan Cup 2003

セルジョ・バルベロー
2連覇・通算3勝目を挙げる!!

気温17.3（予想最高気温は20）、湿度55%、東北東の風2m。絶好のコンディションの中2003ジャパンカップが、今年も多く観衆を集め宇都宮市森林公園周辺周回コースで開催された。

今年の出走選手数は、海外招待チーム6チーム30名、国内招待チーム9チーム44名の、計15チーム74名。レース距離151.3km、4時間以上にわたる国内最高のレースが、大会会長である福田富一宇都宮市長のピストルによりスタートした。

1周目の古賀志林道で飛び出したのは福島康司（JPCA）で、山頂を奪い快調に逃げる。このレースで福島の逃げが



スタート前のバルベロー

見られるのも、これで3年連続だ。後に続くのは野寺秀徳（シマノ）、坂口博、江下健太郎（共に愛三工業）、日置大介（CCDキナン）の4名。福島を捉え5名となった先頭集団は、林道を下りきった時点でメイン集団に早くも40秒の差をつける。その後も5名はメイン集団との差を広げ、1周完了のS/Fラインではその差が1分38秒となる。ラップタイムは21分57秒。

2周目の古賀志林道の上りでは、先頭集団から江下と坂口が遅れ始める。江下は下りで先頭集団に復帰することができたが、坂口はそのまま脱落してしまった。これで4名となった先頭集団であるがその後も後続との差を広げ、2周完了のS/Fラインで2分48秒、3周完了時には3分39秒のアドバンテージを得る。3周目にはメイン集団から中川康二（ミヤタ）が飛び出す、その差は思うようには縮まらず再び集団に吸収される。なお3周目の山岳賞は日置が獲得した。

4周目に先頭集団から江下が脱落する。先頭集団は3人と小さくなったが依然メイン集団との差を広げ続け、5周目の10km地点ではその差が4分50秒となる。だがラップタイムは23分台で、決して早いペースとはいえ、後続の様子を

見られている気配もうかがえられた。

2回目の山岳賞の懸かった6周目、山岳賞は野寺が奪うが山頂でのメイン集団との差は4分9秒で、このレースで初めて先頭とメイン集団との差が縮まった。いよいよレースが本格的に動き始めた。6周完了時にはその差が3分41秒、7周完了時には2分6秒、コフィデイスを始めとする海外チームが集団を引っ張り、その差がみるみるうちに縮まっていく。

8周目の古賀志林道の登坂は強烈であった。7周完了のS/Fラインでメイン集団の先頭5名をコフィデイス勢が占めた、そのうちの一人であるガイド・



宇都宮市長の号砲でスタート

山頂の野寺、福島康、日置(左より)



トレンティンを先頭にメイン集団のピッチが上がり、古賀志林道1kmの登りで先頭3名との差を1分以上縮め、山頂では先頭との差がわずか43秒となる。そして8周目の鶴CCの上りでついに先頭3名が集団に捕まった。8周完了のS/Fラインこそ逃げていた野寺が死守したもののその差は2秒、このあと山岳賞の懸かった9周目の古賀志林道の上りが、サバイバル・ヒルクライムとなりそうだ。この上りで脱落した選手には、もう勝利の権利は与えられないであろう。

3度目の山岳賞はトレンティンが獲得した。この上りで先頭集団は20名程度となり、その後ろを6,7名の選手が追い、さらにメイン集団が続くという展開になる。この週の9km地点で先頭集団は24名で、後続18名ほどの集団に1分45秒の差をつける。もはやこの先頭集団に属する選手から勝者が誕生するのは間違いない。その中にはナショナルチャンピオンである福島晋一(ブリヂストン)狩野智也(シマノ)ら国内勢も数名含まれるが、やはり中心はコフィディス、ランプレ、サエコ、クイックステップら海外勢だ。昨年の覇者セルジョ・バルベロ(ランプレ)も満を持してこの集団にその姿を見せる。

10周目は集団を絞り込むべく、細かいアタックの応酬となる。古賀志林道では田代泰崇(ブリヂストン)がアタックするが、これは山頂で吸収される。5km地点でパチ・ビジャ(ランプレ)がアタック。これもすぐ吸収されるがこのようなアタックの度に選手が振り落とされ、9km地点で先頭集団は12名。10周完了のS/Fラインでは先頭集団は7名。最終ラップ11周目の古賀志林道で

パトリック・シンケビッツ(クイックステップ)がアタックすると、サエコの2名が脱落し先頭集団は5名。さらにこの5名がシンケビッツ、バルベロ、トレンティンの3名、フェリックス・ガルシアサカ(ピアンキ)、ダニエル・アティエンザ(コフィディス)の2名に分かれる。残り5km地点でその差は4秒、残り3km地点で差は10秒に開き、優勝は先頭3名に絞り込まれた。3名はそれぞれ別のチームであり勝負は判らないが、トレンティンはこれまで上

山頂へ向う集団



フィニッシュまであと1周のシンケビッツ、クネゴ、バルベロ、グロムザー(右から)



ゴールスプリントで先行するバルベロ



最終周、先頭の3選手を写す大型モニター



祝福を受ける3選手

りで積極的に前を引いており、残された足に不安があることは否めない。果たしてゴールプリントはシンケビッツ、バルバーロ2名の争いとなり、バルバーロがこれを制してジャパンカップ2連覇、クラウディオ・キアプッチと並ぶ3勝目を記録した。

なお、今年からプロ・アマオープンとなった前日のレースは、男子(80.8km)は清水裕輔(埼玉)が優勝、女子(42.3km)は沖美穂(ファームフリッツ)が大会6連覇を遂げた。(村田 隆宣)



女子に出場したファームフリッツの3選手(中央:沖)



前日の男子で優勝した清水



女子で優勝した沖

[競技結果]

プリント (151.3km)

- 1 ヘルジョ・バルバーロ ITA LAMPRE 4:03:56
- 2 パトリック・シンケビッツ GER QUICK STEP 4:03:56
- 3 ゲイド・トレンティン ITA COFIDIS 4:03:58
- 4 フェリックス・ガルシアカス ESP BIANCHI 4:04:17
- 5 ダニエル・アティエガ ESP COFIDIS 4:04:17
- 6 ダミアノ・クネコ ITA SAECO 4:04:37
- 7 ゲーリック・クムザー AUT SAECO 4:04:58
- 8 マルク・ルトキビッチ POL COFIDIS 4:04:59
- 9 アルヴァロ・ロサ・ツィアルティ ITA SAECO 4:05:01
- 10 田代 恭崇 JPN プリンスアスカ 4:05:25

男子 (80.8km)

- 1 清水 裕輔 埼玉 2:13:42
- 2 中村 文武 東京 フィット 2:13:43
- 3 宮崎 景涼 埼玉 プリンスアスカ 2:13:43
- 4 橋本 健 鹿児島 Vitesse-仔加 2:13:57
- 5 宮沢 崇史 長野 プリンスアスカ 2:13:58
- 6 藤田 晃三 埼玉 2:13:59
- 7 鈴木 太地 神奈川 プリンスアスカ 2:14:00
- 8 二戸 康寛 東京 なるしまフレンド 2:14:04
- 9 佐野 友哉 大阪 プリンスアスカ 2:14:11
- 10 山根 理史 島根 旭-A&Tヤマダ 2:14:13

女子 (42.3km)

- 1 沖 美穂 JPCA FARM FRITES 1:17:45
- 2 高橋いづみ 東京 SY-Nak 1:18:09
- 3 唐見実世子 石川 ビンズバト 1:18:17
- 4 村中恵美子 東京 千葉医療福祉 1:18:20
- 5 萩原麻由子 群馬 伊勢崎女子高 1:18:52
- 6 大塚 歩 栃木 A+00 1:19:32
- 7 真下 正美 神奈川 SY-Nak 1:19:37
- 8 小野山恵美 愛媛 イキッポー 1:19:40
- 9 関家 朋子 東京 ミタバ 和 1:20:59
- 10 西 加南子 千葉 ミタバ 和 1:22:43

第34回 全日本室内自転車競技選手権



10月11～12日、大阪なみはやドームのサブアリーナにおいて、第34回全日本室内自転車競技選手権大会が開催された。サイクルサッカーは、ベテラン山本・松本ペアの日本通運チームがすべてのセットを勝ち優勝、またサイクルフィギュアは実力通り、男子 佐浦、女子 堀井が優勝した。

サイクルサッカー、日本通運の攻撃

[競技結果]



サイクルサッカー

- | | | |
|---|--------|-------------|
| 1 | 日本通運 | 山本 勝敏・松本 恒治 |
| 2 | ビニーズ大阪 | 宮本 武彦・木下 直也 |
| 3 | 舞馬 | 大野 和俊・芦塚 正博 |
| 4 | チームジ | 森 茂史・黒田 岳 |

サイクルフィギュア男子シングル

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| 1 | 佐浦ひろゆき | 東京輪球会 | 278.92 |
| 2 | 芦田 史郎 | アソビニ京葉 | 246.80 |
| 3 | 永井 隆 | 東京工業大学 | 238.10 |

サイクルフィギュア女子シングル

- | | | | |
|---|-------|------------|--------|
| 1 | 堀井 和美 | 京滋B.LAngel | 258.72 |
| 2 | 宮崎 沙織 | 東京輪球会 | 232.00 |



サイクルサッカー優勝の日本通運(手前)

女子サイクルフィギュアの堀井



男子サイクルフィギュアの佐浦

uci 2003年ロード世界選手権

男子エリートの集団



個人タイムトライアル 10月7日～9日
日本チームはジュニア男子1名のエントリー、全日本タイムトライアル(ジュニア男子)優勝の村上純平が出場。

コースは個人ロードコースにプラス(8.4km)の20.8km、1周のコース上に1.7kmの上り坂(7%～11%)が2ヶ所、3番目にスタートした村上は、62名中60位に終わった。

個人ロードレース 10月10日～12日

10月10日 アンダー-23

ジュニア女子が終り、12時にスタートしたアンダー-23、133名がスタート、日本チームは別府が出場した。

序盤戦は集団に大きな動きもなく集団のままレースが展開されるが、5周回目に2名の選手が集団から飛び出すと、アタックの掛け合いが始まり集団のペースも一気に上がる。

決定的な逃げが決まらないままラスト3周回、9名の選手が集団から飛び出し、最終周回の最後の上り坂で集団に吸収されそうになるが、Lagutin Sergey(ウズベキ)が再びアタック。集団とのタイム差7秒で頂上を7名が通過。

下り坂を一気に下りきり集団とのタイム差を9秒にしスプリント勝負。混戦を制し優勝したのは、常に積極的なレース展開を見せていたLagutinであった。

別府は常に集団の前に位置し、アタックに乗るチャンスをうかがっていたが、自分からアタックする決断を逸してしまいメイン集団でゴール、24位に終わった。

10月11日 ジュニア男子

気温の上昇で霧が発生し、視界の悪いなか9時にジュニア男子がスタート(12.4km×10周)124km、140名がスタート。日本チームからは西村光太、畑中勇介、村上純平が出場。

U-23より早いペースでスタートした1周目、村上が最終コーナーでブレーキコントロールミスし自爆落車、腰を強打し残念ながらリタイア。

常にアタックがあり逃げのレース展開となるが、決定的な逃げは決まらず、最終周回、最初の上りで坂でアタックがあり集団が大きく分かれる。

トップ集団20名となり大集団のゴール勝負となったが、ゴール前50mから単独抜け出したReus Ka(オランダ)が優勝。

最終周回、後続集団に取り残されてしまった西村、第3集団で61位、第4集団の畑中88位でゴール。

エリート女子

12時45分スタートのエリート女子は気温が上昇し暑い中スタート、走行距離はジュニア男子と同じく124km、116

名がスタートした。

ワールドカップ参戦で、知り合いも多く徐々にレース展開に乗れるようになってきた沖、常に集団の前方に位置し、主要なアタックに乗れるようレース展開を見ながら走る。

序盤戦は集団からアタックする選手がいるものの、逃げは決まらないままラスト3周回、上り坂のアタックで集団が大きく分かれる。

トップ集団25名、沖は第2集団40名の中に取り残される。ラスト2周回、ジャーニロンゴが集団から独走で飛び出す。続いて集団から5名の選手が追走しロン

ゴを追うが思うようにタイム差が詰まらず、最終周回ゴール手前3kmの下り坂でロンゴを吸収。

ロンゴは遅れ、5名のゴールスプリントとなり写真判定の結果、Ljungskog Susanne(スウェーデン)が昨年に引続き優勝。

トップ集団に乗れなかった沖、第2集団からアタックしたものの、集団からぬけだすことが出来ず48位でゴール。

10月12日 エリート男子

最終日に行われたエリート男子は180名がスタート。7年ぶりにアジア選手権で優勝した鈴木真理(シマノ)が大陸枠で日本チームから出場した。

世界の強豪に混じり序盤から中盤にかけてトップ集団の前方に位置し、宇都宮世界選手権以来の世界選手権完走なるかと思われたが、ラスト5周回、猛烈なアタックが繰り返され、決定的な逃げが決まらず一列棒状のレース展開となり、上り坂で一気に遅れてしまう。

ラスト4周回を残し残念ながら完走ならず、リタイアに終わった。

最終周回までもつれたレース展開は、最後の上り坂で集団から僅かに飛び出していた9名の選手が牽制状態となった瞬間アタック。下り坂を一気に駆け抜け先行したAstarloa Igo(スペイン)がゴール前に辛うじて逃げ切り優勝。

惜しくもリタイアした男子エリートの鈴木



総評

ハミルトン(カナダ)は9月末から10月5日まで寒気団が停滞し、日中でも10度以下の日が続き、アラレも降るなど極寒と強風の日が続いていたが、6日以降は晴れの日が続き気温も上昇、29度まで上がるなど異常な天候の中で行われた。

10月3日に現地入りした日本チームは、エリート男子(1名)、エリート女子(1名)、U-23(1名)、ジュニア男子(3名)、計6名が参加した。

各選手大いに健闘したが、エリート女子、ジュニア男子は終始トップ集団で走ることが出来たものの、最終的に勝負どころでレース展開に乗れず、後続集団に取り残されてしまい力不足であった。

U-23の別府は常に集団の中でチャンスをうかがっていたが、自分から仕掛

けることが出来なかった。ヨーロッパのチームに所属して2年目、別府に大きな飛躍が垣間見られた今大会、今後エリートカテゴリーを見据えてより厳しい走りに挑戦しても

raitai.

エリート男子は世界での経験不足と体力のなさが、決定的なレベルの差となってリタイアにつながってしまった。

海外でのレース経験が不足していることから、当り前に走れることが、大変に感じられることが多く、ヨーロッパで多くのレース経験が望まれる。

(強化コーチ 高橋 松吉)

[競技結果]

2003ロード世界選手権

(10/7-12 カダ・ハミルトン)

男子エリート個人ロードレース(260.4km)

1	ASTARLOA Igor	ESP	6:30:19
2	VALVERDE BELMONTE Alejandro	ESP	6:30:24
3	VAN PETEGEM Peter	BEL	6:30:24
	鈴木 真理	JPN	DNF

女子エリート個人ロードレース(124.0km)

1	LJUNGSKOG Susanne	SWE	3:16:06
2	MELCHERS Mirjam	NED	3:16:06
3	COOKE Nicole	GBR	3:16:06

48 沖 美穂 JPN 3:25:33

男子U23個人ロードレース(173.6km)

1	LAGUTIN Sergey	UZB	4:14:05
2	VAN SUMMEREN Johan	BEL	4:14:05
3	DEKKER Thomas	NED	4:14:05
24	別府 史之	JPN	4:14:14

男子ジュニア個人ロードレース(124.0km)

1	REUS Kai	NED	3:01:30
2	LUND Anders	DEN	3:01:44
3	FUS Lukaz	CZE	3:01:44
61	西村 光太	JPN	3:02:20
88	畑中 勇介	JPN	3:08:06
	村上 純平	JPN	DNF

女子ジュニア個人ロードレース(74.4km) 日本不出場

1	MARKERINK Loes	NED	2:05:39
2	TOLMACHEVA Irina	RUS	2:05:39
3	FISCHER Sabine	GER	2:05:39

男子エリート個人TT(41.6km) 日本不出場

1	MILLAR David	GBR	51:17.29
2	ROGERS Michael	AUS	52:42.38
3	PESCHEL Uwe	GER	52:42.94

女子エリート個人TT(20.8km) 日本不出場

1	SOMARRIBA ARROLA Joane	ESP	28:23.23
2	ARNDT Judith	GER	28:34.01
3	ZABIROVA Zoulfia	RUS	28:49.48

男子U23個人TT(30.8km) 日本不出場

1	FOTHEN Marcus	GER	38:35.29
2	SCHEUNEMAN Niels	NED	38:54.28
3	BESPALOV Alexandr	RUS	38:56.57

男子ジュニア個人TT(20.8km)

1	IGNATIEV Mikhail	RUS	27:01.88
2	GRABOVSKYY Dmytro	UKR	27:23.15
3	RENANG Viktor	SWE	27:24.38
60	村上 純平	JPN	30:41.82

女子ジュニア個人TT(15.4km) 日本不出場

1	KNOPFLE Bianca	GER	22:17.08
2	MARKERINK Loes	NED	22:33.60
3	SLAPPENDEL Iris	NED	22:48.01



SHIMANO

The 100th Anniversary Tour de France
Lance Armstrong
United States Postal Service Team, USA
Wins Fifth Consecutive
Riding New DURA-ACE

DURA-ACE

www.shimano.com

第58回ニューわかふじ国民体育大会

第58回ニューわかふじ国体自転車競技初日は個人ロードレースで、静岡県浜松市をスタートし、国道150号を東進して御前崎町を周回してスタートに戻る、成年130.78km、少年112.93kmのフラットコースで行われた。

スタート地点は5月の「たこ揚げ祭り」で有名な所で今日もたこが揚がっている。いつものように朝の慌ただしさの後、竜洋町長のピストルで成年が9時に88名、少年は3分遅れで89名がスタートした。30分ほどで岐阜、宮城の選手が相次いでリタイア、トラック種目に絞ったようだ。

成年は32kmで6名が抜け出し、すぐに7名が追いつき13名で先頭集団を形成した。その後、大集団とは徐々に差が開いていき、折り返しでは約2分差になった。残り30km付近から大集団から抜け出した6名が追走を開始したが向かい風できついようだ。残り20kmになり、少年が先にゴールするか、同時か、成年をパスさせるかと競技本部が慌ただしくなったが、成年が少し牽制に入り、どうやら少年が先にゴールする見込みになって落ち着いた。

ラスト1kmで小笠原 豪(青森)が抜け出しそのままゴール。あとはゴールスプリントで2位に長野耕治(愛媛)、3位

に大野涼太(青森)が入り、青森が一気に14点獲得した。結局、早い段階での逃げが決まったレースだった。

少年は小刻みなアタックが繰り返されたが大集団のまま後半まで来た。残り20kmで水尾健志(神奈川)と旗手裕嗣(大分)が抜けだし、水尾が徐々に旗手を離しそのままゴール。14秒遅れで2位旗手、さらに12秒遅れで約40名の大集団がゴールした。その中3名ほどがゴール手前で落車した。ゴールスプリントに勝った石浦一憲(京都)が3位に入った。

2日目から静岡競輪場で快晴微風の好条件のもと、トラック競技が始まった。

スプリント予選は10秒台が出るかと思われたが、少年の柴崎 淳(三重)の11秒066が成年とも合わせてベストであった。

最初の決勝種目1kmTTで少年の松田優一(茨城)が、1分07秒122の大会新記録で優勝した。1分10秒を切った選手が8名いた。成年は竹沢浩司(富山)が1分



少年エリミネーション決勝(中央①6が優勝の加美山)

07秒900で勝った。10秒を切ったのは6名で少年の方が良かった。

トラック2日目は朝方冷たい秋雨。競技開始時にはどうやら上がったが冷たい北風が吹いている。少年4km団体追抜予選が始まる頃には走路も乾きだした。6位まで4分40秒を切る好タイムだった。予選トップはインターハイ2、3位の高校から選抜した秋田が4分37秒731をマークした。前評判の高かった岐阜は6位に終わった。成年の10組目あたりからまた雨が降り出して、まもなく

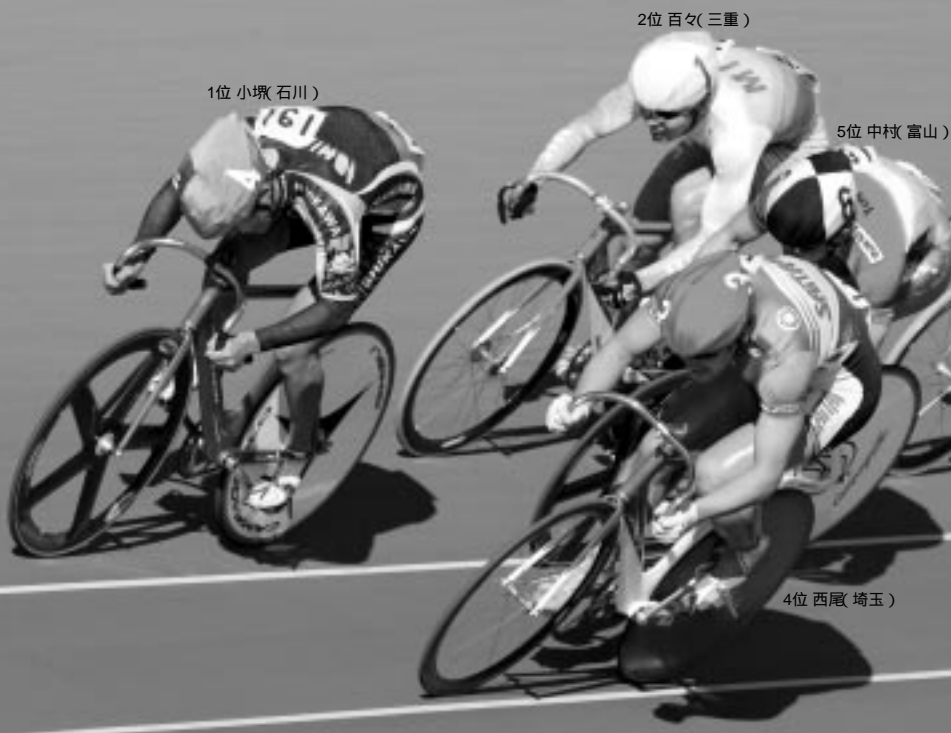
成年4000m速度競走決勝
1位糸賀(手前)と2位山田



少年4000m速度競走優勝の小豆畑
集団をラップしフィニッシュ



ケイリン決勝の最終コーナー



1位 小塚(石川)

2位 百々(三重)

5位 中村(富山)

4位 西尾(埼玉)

成年ポイントレース 1位武藤、2位西谷(手前)



少年ポイントレースの覇者 河原林



本降りになってしまった。その中で愛知が予想通り4分30秒723の好タイムで1位通過した。

スプリント敗復でスタートから2周逃げた選手が「規則外の助力を与えたこと」により降格になったのが2件あった。これは珍しいことだ。

トラック3日目、朝方土砂降りの雨だったが朝の練習時間の頃には上がり、競技開始時にはバンクも乾き快晴微風になった。

少年エリミネーション決勝では4名が落車し、適切な状況判断が望まれる結果となった。

成年4000m速度競走決勝では2人で逃げていたうちの西村行貴(熊本)が1コーナー手前で突然落車。医務室で治療を受けた後、「何で転んだんだろう」と言っていたとか。

いよいよ最終日、秋晴れのぼかぼか陽気で富士山も雪化粧をしてきれいに見えた。少年ポイントレースは混戦の中、ロングスパートを3回見せて15点を獲得した河原林淳(京都)が優勝。後半追い上げた西村光太(三重)が1点差で2位だった。

成年は前半から着々とポイントを得た武藤大輔(高知)が、後半西谷泰治(愛知)と2人で逃げ26点で優勝し、西谷選手の3連覇を阻んだ。

少年スプリントは、予選で1番時計の柴崎 淳(三重)が1/4決勝で敗れ、吉松賢二(群馬)も失格となり、勝ち残った坂本亮馬(福岡)はゴール直後に落車して3、4位決定戦を欠場した。その中、決勝は新田祐大(福島)が2本連取して笹倉慎也(富山)を破り優勝した。

成年決勝は予選1位のインカレチャンピオン川村 崇(東京)と、昨年のよさこい国体高知の山中貴雄(高知)の対戦

少年スプリント決勝、1位新田(左)と2位笹倉



成年スプリント決勝、1位山中(手前)と2位川村



となったが、山中がうまいレース運びで2本連取して優勝した。

4km団体追抜競走は前評判通り、少年は予選1位の秋田、成年は愛知が優勝した。

天皇杯得点は4000速度の成年、少年、

スプリント少年で優勝した福島が58点で1位。2位は少年、成年団抜で得点を稼いだ岐阜が51点、3位は少年団抜で2位になった京都が50点だった。やはり団抜で上位に入ると非常に有利である。

(静岡車連理事 大木 正樹)

少年団抜優勝の秋田チーム



成年団抜優勝の愛知チーム



[競技結果]

ロードレース:10月26日、トラックレース:10月27~30日
<少年>

個人ロードレース(112.93km)

- 1 水尾 健志 神奈川 藤沢北高 2:45:02.474
- 2 旗手 裕嗣 大分 別府商高 2:45:26.198
- 3 石浦 一憲 京都 北桑田高 2:45:38.126
- 4 佐野 佑一 徳島 徳島商高 2:45:38.334
- 5 宮腰 圭祐 福井 春江工高 2:45:38.522
- 6 西村 光太 三重 三重高校 2:45:38.609
- 7 鷲田 幸司 福井 春江工高 2:45:38.647
- 8 長 義幸 和歌山 田辺高校 2:45:38.671
- 9 宮原 哲弥 福岡 久工大高 2:45:38.713
- 10 中山 雄紀 兵庫 三田学園 2:45:38.744

1kmタイムトライアル

- 1 松田 優一 茨城 取手第一高 1:07.122
- 2 早坂 秀悟 宮城 仙台商業高 1:07.471
- 3 中村 健志 熊本 九州学院高 1:07.835
- 4 大西 祐 香川 高松工高専 1:08.819
- 5 山崎 晃 石川 内灘高校 1:09.387
- 6 金澤 竜二 福島 学法石川高 1:09.579

スプリント

- 1 新田 祐大 福島 白河高校
- 2 笹倉 慎也 富山 水橋高校
- 3 佐藤 博紀 岩手 紫波高校
- 4 坂本 亮馬 福岡 久留米工大附属高校
- 5 柴崎 淳 三重 朝明高校
- 6 鈴木 庸之 新潟 燕工業高校

ポイントレース(24km)

- 1 河原林 淳 京都 北桑田高校 15 p
- 2 西村 光太 三重 三重高校 14 p
- 3 石川 洋介 熊本 開新高校 11 p
- 4 長江 寿也 青森 八戸工業高校 11 p
- 5 後藤 辰徳 岐阜 岐南工業高校 11 p
- 6 守澤 太志 秋田 大曲農高校 10 p

4km速度競走

- 1 小豆畑郁也 福島 学法石川高校 5:11.160
- 2 是永 幸寛 福岡 豊国学園高校
- 3 大久保淳一 福井 春江工業高校
- 4 和田 圭 宮城 古川工業高校

- 5 牧瀬 雄志 鹿児島 鹿児島実業高校
- 6 前田 修平 和歌山 紀北工業高校

イミテーション

- 1 加美山隆行 宮城 仙台商業高校
- 2 椎木尾拓哉 和歌山 和歌山北高校
- 3 花岡祐太郎 長野 岡谷工業高校
- 4 神山 拓弥 栃木 作新学院
- 4 石川 雅望 群馬 前橋工業高校
- 4 中村 悠太 熊本 千原台高校

4km団体追抜競走

- 1 秋田 仲村・根本・守澤・佐藤 4:39.193
- 2 京都 辻中・石浦・河原林・太田 4:43.995
- 3 熊本 中村健・中村悠・石川・鬼塚 4:43.269
- 4 鹿児島 近藤・川又・大村・牧瀬 4:48.447
- 5 栃木 齋藤・神山・古川・増田 4:39.117
- 6 岐阜 高橋・川西・後藤・中島 4:39.130

<成年>

個人ロードレース(130.78km)

- 1 小笠原 豪 青森 日本大学 2:54:49.248
- 2 長野 耕治 愛媛 長野建具 2:55:07.267
- 3 大野 涼太 青森 中央大学 2:55:07.559
- 4 圓谷 崇 新潟 隆和堂 2:55:07.662
- 5 菅原 勝良 埼玉 野口輪業 2:55:07.759
- 6 水尾 和孝 神奈川 中央大学 2:55:07.827
- 7 大矢 繁 奈良 近畿運輸 2:55:07.848
- 8 寛 五郎 長野 2:55:07.873
- 9 西谷 泰治 愛知 愛三工業 2:55:08.161
- 10 普久原 奨 沖縄 日本大学 2:55:08.425

1kmタイムトライアル

- 1 竹沢 浩司 富山 日本大学 1:07.900
- 2 廣川 泰昭 愛媛 ヤマト不動産 1:08.030
- 3 屋良 朝春 沖縄 日本大学 1:08.189
- 4 福井 敬司 鳥取 倉吉総合産高教 1:08.912
- 5 在本 直樹 岡山 玉野ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ 1:08.980
- 6 吉田 将成 岐阜 日本大学 1:09.719

スプリント

- 1 山中 貴雄 高知
- 2 川村 崇 東京 早稲田大学
- 3 河端 朋之 鳥取 倉吉工業高校・教
- 4 柴崎 俊光 三重 中央大学

- 5 大木 卓也 茨城 スﾊﾟｰｸｱｽﾘｰﾄﾞﾎﾞ
- 6 古川 喬 福島

ポイントレース(30km)

- 1 武藤 大輔 高知 高知中央郵便局 25 p
- 2 西谷 泰治 愛知 愛三工業 23 p
- 3 三瀧 光誠 山形 鹿屋体育大学 20 p
- 4 別府 史之 神奈川 15 p
- 5 辻 貴光 京都 立命館大学 12 p
- 6 大矢 繁 奈良 近畿運輸 12 p

ケリッ

- 1 小堺 浩二 石川 京都産業大学 11.589
- 2 百々 敦史 三重 朝明高教・教
- 3 石丸 健次 千葉 陸上自衛隊
- 4 西尾 孝政 埼玉 作州堂表具店
- 5 中村 幸二 富山 富山地所
- 6 稲川 翔 大阪 大阪経済大学

4km速度競走

- 1 糸賀 賢司 福島 日本大学 5:08.580
- 2 山田 哲治 高知 宇治電化学工業
- 3 伊藤 太一 山梨 日本大学
- 4 坂本 信也 富山 ふれあいｽﾎﾟｰﾂ財団
- 5 青木 康貴 岐阜 日本大学
- 6 吉野 鉄平 岩手 紫波高校・教

4km団体追抜競走

- 1 愛知 田中・坂口・西谷・楠本 4:37.116
- 2 岐阜 吉田・佐野・柴田・青木 4:39.677
- 3 福島 明珍周・班日・明珍多・糸賀 4:35.758
- 4 山形 土井・笹原・三瀧・立里 4:45.007
- 5 奈良 辻浦・奥田・佐々木・大矢 4:36.872
- 6 茨城 盛真・大木・盛一・岡田 4:37.056

団体総合(天皇杯)熊本 44点

- 1 福島 58点 5 愛知 41点
- 2 岐阜 51点 6 秋田 39点
- 3 京都 50点

国体10回出場表彰者

- 石丸 健次 千葉
西山 知宏 福井
百々 敦史 三重

2003年高雄国際トラックレース



9月25日成田空港を中華航空CI-107便で高雄に向かった。派遣メンバーは、佐々木龍也、西川親幸、高木隆弘、伊勢崎彰大、濱田浩司の競輪選手と盛 一大(日本大学)でこのレースに挑んだ。

翌26日は、10時から競技場で軽くトレーニングを行い、体調を整えた。バンクは333メートルのガタバンクで走りやすくそうだった。長沢メカニックがタイヤの空気圧を調整しこれに対応してくれた。

27日から3日間のレースが始まったが、毎日気温は、30度を越える暑さで体調の保持に気を使った。酒井マッサーが選手のコンディショニングに当たった。

初日にケイリン予選から始まり西川が日本チームの先陣を切って先行逃げ切りで決勝に進んだ。高木は、シードで決勝にそのまま進んだ。決勝戦は、勝ち上がりの6人とシードの2人で8車立てで行われた。日本は、スタートで5番手



に位置し最後に西川が先行し高木がアシストでゴール勝負となり高木が追込み1位でゴールしたが、3コーナーの押上により降格、西川が繰り上がり優勝となった。台湾のケイリン王となりサイン攻めにあった。

4km個人追抜競走に盛が出場。

予選、決勝で自己新を出し4分57秒685で優勝した。悪走路と風の中でのこのタイムは、立派なものである。

1kmタイムトライアルに濱田が出場したが、1分08秒381で2位に終わった。国内大会の疲れが取れなかったようだ。優勝は1分08秒013を出した台湾の林だった。

30kmポイントレースには佐々木と盛が挑んだ。レースは前半に佐々木が12ポイントを取り上手く走っていたが、後半乗り上げ落車にあい5位でゴールした。盛は、持ち前のスタミナを生かし4ラップし91ポイントで個人追抜に続き2個目の金メダルを手にした。

スプリントは伊勢崎が決勝、佐々木が3・4位決定戦に進んだ。佐々木は落車後にもかかわらず2本先取し、銅メダルを手にした。伊勢崎は台湾の新鋭林に3本勝負の未敗れ、2位となった。林は1kmTT、スプリントで金を手にした。

29日最終日チームスプリントに日本はA・Bの2チームをエントリーしAチームに高木、伊勢崎、濱田の3人。Bチームは佐々木、西川、盛で走り、Aチームが1分05秒610を出し決勝に、Bチームは1分08秒694で3・4位決定戦に回った。Bチームは、1分07秒353で予選タイムより1秒早

いタイムで銅メダルを手にした。Aチームも0.4秒予選より早くゴールし金メダルを手にした。

これで、全員がメダルを獲得することが出来た。3日間のレースで暑さの中選手は、良く走ったと思う。タイムテーブルも朝が早く8時30分スタートなどのレースもあり良く頑張った。今回サポートスタッフで協力して頂いた長沢メカ、酒井マッサーお疲れ様でした。高雄車連の皆様にも大変お世話になりました。以上感謝をこめてご報告させていただきます。ありがとうございました。

(監督 福田 公生)

[競技結果]

スプリント

1	Chih Hsun LIN	TPE
2	伊勢崎彰大	JPN
3	佐々木龍也	JPN
4	Kun Hung LIN	TPE
5	Chia Wei HUNG	TPE
6	Chi Yin LEUNG	HKG

1kmタイムトライアル

1	Chih Hsun LIN	TPE	1:08.013
2	濱田 浩司	JPN	1:08.381
3	Chin Feng LIU	TPE	1:10.338
4	Ying Chieh HUNG HSU	TPE	1:10.820
5	Chi Yin LEUNG	HKG	1:13.186
6	Cheng Yu TSAI	TPE	1:16.230

4km個人追抜競走

1	盛 一大	JPN	4:57.685
2	Chi Sheng HUANG	TPE	5:12.101
3	Chin Feng LIU	TPE	5:10.975
4	Yu Liang CHOU	TPE	5:18.155
5	Teng Huan LIU	TPE	5:34.499
6	Cheng Yu TSAI	TPE	5:35.017

ポイントレース (30km)

1	盛 一大	JPN	91 p
2	Ying Chieh HUNG HSU	TPE	62 p
3	Chin Feng LIU	TPE	45 p
4	Chi Yin LEUNG	HKG	24 p
5	佐々木龍也	JPN	12 p
6	Shao Yu TSAI	TPE	10 p

ケイリン

1	西川 親幸	JPN
2	Chih Hsun LIN	TPE
3	Chin Feng LIU	TPE
4	Kun Hung LIN	TPE
5	Chi Yin LEUNG	HKG
6	Chang Cheng CHEN	TPE
7	高木 隆弘	JPN

チームスプリント

1	日本A 伊勢崎・濱田・高木	1:05.193
2	TPE / Taichung A	1:07.098
3	日本B 佐々木・西川・盛	1:07.353
4	TPE / Kaohsiung - Merida	1:09.761



2003年全州(チョンジュ)MBC国際ジュニアロードレース



2003年チョンジュMBC国際ジュニアロードレース大会が10月24日から11月2日の10日間、韓国全州で9ステージ(955.5km)で行われた。10月とは思えない暖かい気温でコンディションも良くレースに臨めた。

10/24 プロローグ 2.6km (Cheong Ju)

平坦でなおかつ2.6kmという短いコースで89名がスタート。日本選手は世界選から帰ったばかりの畑中が積極的に攻め、惜しくも1秒差で4位。吉成14位、島田15位、瀧口24位、長沼43位。チーム総合は4位で明日からのステージに臨んだ。

10/25 第1ステージ 129.8km (Cheong Ju - Jeon Ju)

平坦コース、スプリント力のある韓国選手を中心にカザフスタン、ウズベキスタンが終始レースを支配していた。

13km地点で長沼がアタックをかけるがすぐに吸収され、レースは大集団のまま。レース中何回かアタックの掛け合いとなり90km地点で6名が逃げ出した。100km地点で集団が追いつき、残り10km地点で吸収されそのまま大集団でゴール。HONG Soon Ki(カピオン高校)が優勝。日本チームもゴール前スプリントに出たが、前に出られず島田15位、長沼41位、畑中47位、瀧口55位、吉成78位。出走90名完走79名であった。チーム総合は4位のまま。

10/26 第2ステージ 116.4km (Jeon Ju - Gwang Ju)

ややアップダウンがあるが、日本選

手にとってはまだ平坦と思えるコースで82名がスタート。この日は長沼が3km地点からアタック。31km地点までリードしたが、その後集団に吸収された。68km地点で島田が機材トラブルで約2分程タイムをロスした。その後チームカーで集団に追いつこうとしたが、片側一車線となり、そのままチームカーは集団へ向かい、島田は数名で集団を追うことになった。レースは残り15km地点でカザフスタンが単独でアタックしそのまま優勝した。

島田はゴール後DNFになっていたため審判に抗議し、間違いが認められ56位となった。集団ゴールは畑中10位、吉成25位、瀧口28位、長沼34位で4名が集団でゴールしたため、チーム総合は5位にとどまった。

10/27 第3ステージ 105.9km (Gwang Ju - Gwang Yang)

明け方から落雷と強い雨でレース状況がどうなるのかと思われたが、スタート時には雨も上がりコンディションは良かった。

88名がスタートしアップダウンを繰り返しながら山岳に向かうコースで、76km地点でカザフ、ウズベク、韓国と共に島田、長沼がアタックをかける。

集団を畑中が押さえる中、11名のトップ集団は快調に飛ばし、ラスト1kmで長沼がアタック、ゴール前500mで島田がスプリント勝負に出たが、惜しくもカザフスタンに差され2着になった。

長沼もトップ集団でゴールし11位。

第2集団を引いていた畑中、瀧口は47位、48位。山岳で遅れた吉成はDNFとなっていたが抗議した結果、8分遅れで完走になった。この日は島田、長沼の頑張りで2位ウズベキスタンと20秒差の3位(チーム総合)となって初のメダルへ一歩近づいた。また、この日山岳賞を狙った長沼は3位でポイントを獲得した。完走は65名だった。

10/28 第4ステージ 112.3km (Gwang Yang - Ma San)

釜山からやや奥に入った港町で風が強く、山岳ではないが、だらだらとしたアップダウンがあるコースで、選手の疲れが心配された。86名がスタートしたレースは33km地点で吉成を含む数名が遅れ、38km地点で回収された。後半集団は追い風に乗ってハイペースとなり残り15kmでノーソン高校のKang Dong Jinがアタックし20秒差で優勝した。

日本チームは勝負所となる明日のレースに備え力を温存。畑中6位、島田9位、瀧口27位、長沼30位、吉成DNF。完走は43名。チーム総合は3位のまま第5ステージへ臨む。

10/29 第5ステージ 128.9km (Ma San - Kyung Ju)

前日のミーティングでレースの勝負どころ、アタックの場所等を監督から指示され気合いを入れて臨んだステージ。

3つの山岳賞と長い距離でどのチームもステージの勝負どころだと思っている。スタートから50kmほどは平坦が続き大きな展開もなく最初の山岳ポイントに向かった。ここで畑中がアタックをかけ、ポイント前数メートルまでトップだったが、Kang Dong Jin(KOR)にさされ、2位(3p)。その後下りで追いつかれる。80km地点でウズベキスタンを含む3名の選手がアタックをかけ、集団と1分差。日本チームは全く動けずカザフスタンがリードを守るため集団をコントロールする。

勝負どころの3回目の山岳ポイントでも全く前に出られず、そのまま2名がゴール。優勝はLee Won Jae(カピオン高校)、2位はウズベキスタンの Abdurahi Mov Azizbekだった。

日本チームは消極的な走りで、畑中13位、島田20位、吉成31位、長沼36位、瀧口40位。チーム総合はウズベキスタ



ンに40秒差をつけられたが、順位は3位をキープ。レース後のミーティングで監督に檄を飛ばされ、後半へと向うことになった。

10/31 第6ステージ 121.0km (Po Hang - Uool Jin)

これからまだ勝敗に関係する日程でありながらノーソン高校がリタイヤし、出走79名となった。この日は平坦な海沿いのコースであったが、山岳賞が2ヶ所あってアップダウンに富むコースだった。

レースは島田、長沼、畑中が積極的にアタックをかけるが、集団から逃げ出せずいたが、最初の山岳ポイントの8km手前から畑中と韓国選手が逃げ、集団に30秒の差をつけるが、山岳ポイントの手前で集団に吸収された。

登りを得意とする日本チームは2つ目の山岳ポイント手前10kmから登りはじめたところで畑中、長沼の登りの

エースが集団落車に巻き込まれタイムロス。その後2人で集団に追いつくことにした。ゴール手前2kmから畑中が逃げに入るが残り300mで追いつかれ、集団ゴールとなる。完走者も54名となりリタイヤが多くなった。

結果は15位吉成、20位長沼、26位島田、27位畑中、43位瀧口、チーム総合3位は動かず。

11/1 第7ステージ 122.8km (Uool Jin - Kang Leung)

選手の疲労もピークに近づいているが残り2ステージということで、登りで差をつけるように監督の指示を受けスタートラインに向った。

特に今日は気温も高く11月とは思えない程だった。レースは予想以上にアップダウンがきつく選手はばらけた。ここで日本選手は積極的に前に出て、常に集団の前に入る。77km地点ではすでに44名の選手しか残らず、島田

長沼を含む11名がアタックをかける。このスピードに吉成がついて行けずリタイヤ。残る15kmでカザフのエースが機材トラブルで脱落。日本チームは残り13kmで畑中がアタックをかけるが、なかなか逃げられない。残り10kmで3名が

逃げ始めそのままゴール。日本チームはメイン集団のままゴールした。完走者54名。

結果は15位吉成、20位長沼、26位島田、27位畑中、43位瀧口。チーム総合は3位をキープ。

11/2 第8ステージ 115.7km (Won Ju - Cheong Ju)

最終ステージ。今日はチーム総合3位をキープするために全員が上位で完走するように、4位のカピョン高校をマークして逃げさせないように監督に指示を受けスタートした。

74名出走で、町を抜けるとガラガラした登りが続き、初めからリタイヤする選手がいた。

25km地点で落車があったが、無難に山を越え平坦な道へ向った。34km、64km地点で数名がアタックをかけ速度も上がり、75km地点では走っている選手は56名となる。その後ゆっくりしたレース展開で進み、56名の集団のままゴールへ。残り500mでスプリントが始まるが、日本チームは全員が集団でゴール。見事チーム総合3位を守りきった。

今回のステージレースでは、ヨーロッパで多くの経験をしているカザフ、ウズベキの選手達と日本選手の力量の差や、韓国車連上げての10日間にわたるジュニアのステージレースの素晴らしさなど、日本の高校生では考えられない事を経験できました。

また、日本チームが3位入賞できたのも監督を始め、マッサージの宮島さん、通訳のシンさんやスタッフのみなさんのサポートのお陰です。ご協力いただいた方々にこの紙面をお借りして感謝申し上げ、最後にこの経験を生かし、選手、スタッフ共に「世界で戦える日本」になることを祈ります。

(小松原高校 木村 光男)

[競技結果]

個人総合成績

1	KALININ Konstantin	UZB	23:57:04.34
2	KARIMOV Ruclan	UZB	23:57:04.87
3	KIM Chul Soo	KOR	23:57:13.90
6	長沼 隆行	JPN	23:57:24.10
13	畑中 勇介	JPN	23:59:52.65
15	瀧口 晃広	JPN	24:00:03.84
27	島田 真琴	JPN	24:02:16.34
	吉成 晃一	JPN	DNF

団体総合成績

1	カザフスタン	71:49:35.90
2	ウズベキスタン	71:53:30.25
3	日本	71:54:10.24



2003 ツール・ド・チャイナ

第3ステージ終了後、
ステージ優勝の真鍋(右)と個人総合1位の阿部



今年のツール・ド・チャイナは「2003 TOYOTA CUP TOUR DE CHINA」とトヨタの冠が付き、サポートカーはオールトヨタ車で4ステージをカバーした。

日本チームは10月28日に中国の首都北京に入り、29日に50km程の調整トレーニングを行い、30日の第1ステージに備えた。

今回は、15チーム79名が参加し、日本は真鍋和幸、飯島 誠、中川康二郎、岡崎和也、福島康司、広瀬 敏のナショナルチームとシマノレーシングチームでこの大会に挑んだ。韓国のナショナルチームは、チャンウォンの競輪選手6人がチャレンジしてきた。

10月30日 第1ステージ(140km)

天候は晴れ、気温はやや低いがレースコンディションは良かった。スタート地点はシャンヤンホテルの1km先で懷柔国際会議場前を9時30分にスタートした。6.5km走ると8.6kmの周回コースに入り、15周して4.5kmをもどる起伏の無いコースでレースは行われた。

50km過ぎにレースが動き24人がメイングループとなり、第2集団に4分の差をつけてゴール勝負、中国のWangが1位になった。シマノの野寺が3位、前回チャンピオンの飯島が4位になった。時間は3時間9分36秒でフィニッシュ。

10月31日 第2ステージ(210km)

天候晴れ、昨日に比べ気温が低くスタート前にホットオイルを塗り寒さ対策をしてレースに挑んだ。

このステージは、昨年の第3ステージと同じで飯島に期待した。74kmは周回コースで平坦、80km過ぎから登りに入り海拔700m、1000mの山越えがあり、

下りも悪路で難しいコースが続いた。

レースは、30km過ぎに広瀬ら6人がうまく逃げ出し、それをメイン集団が追いかける展開になった。しかし、100km過ぎで2人で逃げる広瀬が下りでマルコポーロの選手の落車に巻き込まれ集団に吸収されてしまった。

140km過ぎに飯島もシマノの阿部らと逃げたが登りで離され苦しくなった。アシストしていた中川、福島も後方に置かれ最悪の状態になるも真鍋が踏ん張り4位グループでゴール。飯島と岡崎が8位グループでゴールし明日に繋げた。2位でゴールしたシマノチームの阿部が個人総合1位となり、イエロージャージを着る事になった。

11月1日 第3ステージ(122.2km) - 真鍋ステージ優勝 -

天候曇り、昨年の第4ステージと同じ密云スポーツ公園9.4kmを13周する、なだらかなコースで行われた。霧が濃くスタート時間が45分遅れでレースが始まった。

第2ステージで個人総合1位と団体総合1位になったシマノチームがレースをコントロールする展開となり、40km付近でYuriy(KAZ)と真鍋が飛び出し最大差1分43秒を付けてゴールを目指した。

後半に入りタイム差が30秒に縮むも飯島、岡崎、広瀬、中川、福島がブロックし真鍋が後続に13秒差を付けこのステージを優勝し、個人総合3位に浮上した。団体総合も2位となりチームの士気も上がった。今日の勝因は積極性とチームワークの勝利だと思う。依然とシマノチームが1位、阿部も個人総合1位でこのステージを終わらせた。北京の高速道路のスタート地点に近い北京コンフィレンスセンターの宿舎に全チームが移動し最終ステージに備えた。

11月2日 第4ステージ(98km)

天候晴れ強風。1周98kmの高速道路

が3日前に完成し、片側全面規制でレースが行われた。このステージに残った64名で争われ、前半に早くも2つの集団に別れてしまった。日本チームは第1集団に6人、シマノチームは5人おり、レースコントロールをしてゴールに向かった。

40km過ぎに岡崎が抜け出し60km地点のスプリントポイントを奪い、次に真鍋に期待したが、80km地点のスプリントポイントが78kmの所に有りポイントをとることが出来なかった。

飯島、中川、広瀬もアタックするも強風に邪魔され思うようにいかず、ゴール10km手前で福島が落車するなどアクシデントが有り、ひやっとしたが、たいした怪我も無くレースに復帰した。

ゴール勝負は、集団でのゴールとなりHolland(AUS)が最終ステージを勝利した。この結果個人総合はシマノチームの阿部が優勝し、団体総合もシマノチームが優勝した。

日本ナショナルチームは、団体2位、個人総合3位に真鍋が入り、昨年に続き表彰台に登った。(監督 福田 公生)



[競技結果]

第1ステージ(140.4km)

1	GUOZHANG Wang	CHN P.L.A	3:09:38
2	HOLLANDS Eddie	AUS Perth	3:09:38
3	野寺 秀徳	JPN Shimano	3:09:38
4	飯島 誠	JPN JPN National	3:09:38
7	福島 康司	JPN JPN National	3:09:38
15	阿部 良之	JPN Shimano	3:09:38
18	狩野 智也	JPN Shimano	3:09:38
20	今西 尚志	JPN Shimano	3:09:38
23	真鍋 和幸	JPN JPN National	3:09:38
25	山本 雅道	JPN Shimano	3:13:37
35	岡崎 和也	JPN JPN National	3:13:37
36	広瀬 敏	JPN JPN National	3:13:37
38	中川康二郎	JPN JPN National	3:13:37
39	鈴木 真理	JPN Shimano	3:13:37

第2ステージ (210.0km)

1	SIJMENS Nico	BEL	Vlaanderen	4:58:12
2	阿部 良之	JPN	Shimano	4:58:12
3	VAN DE WALLE Jurgen	BEL	Vlaanderen	4:58:12
5	今西 尚志	JPN	Shimano	4:59:46
6	真鍋 和幸	JPN	JPN National	4:59:46
9	野寺 秀徳	JPN	Shimano	5:00:07
10	飯島 誠	JPN	JPN National	5:00:07
15	岡崎 和也	JPN	JPN National	5:00:07
21	狩野 智也	JPN	Shimano	5:00:07
26	広瀬 敏	JPN	JPN National	5:05:47
31	福島 康司	JPN	JPN National	5:08:26
33	中川康二郎	JPN	JPN National	5:08:26
45	鈴木 真理	JPN	Shimano	5:14:21

第3ステージ (122.2km)

1	真鍋 和幸	JPN	JPN National	2:43:03
2	YURIY Yuda	KAZ	Kazakhstan	2:43:05
3	HOLLANDS Eddie	AUS	Perth	2:43:14
4	飯島 誠	JPN	JPN National	2:43:14
9	野寺 秀徳	JPN	Shimano	2:43:14
39	今西 尚志	JPN	Shimano	2:43:14
42	福島 康司	JPN	JPN National	2:43:14
43	阿部 良之	JPN	Shimano	2:43:14
44	岡崎 和也	JPN	JPN National	2:43:14
58	広瀬 敏	JPN	JPN National	2:43:14
59	狩野 智也	JPN	Shimano	2:43:14
60	中川康二郎	JPN	JPN National	2:43:14
70	鈴木 真理	JPN	Shimano	2:43:42

第4ステージ (98.0km)

1	HOLLANDS Eddie	AUS	Perth	2:16:05
2	CUPPENS Tjarco	NED	MP Adv.	2:16:05
3	SIJMENS Nico	BEL	Vlaanderen	2:16:05
4	鈴木 真理	JPN	Shimano	2:16:05
10	飯島 誠	JPN	JPN National	2:16:05
12	真鍋 和幸	JPN	JPN National	2:16:05
19	今西 尚志	JPN	Shimano	2:16:05
22	野寺 秀徳	JPN	Shimano	2:16:05
25	阿部 良之	JPN	Shimano	2:16:05
33	狩野 智也	JPN	Shimano	2:16:05
35	岡崎 和也	JPN	JPN National	2:16:05
39	中川康二郎	JPN	JPN National	2:16:05
44	広瀬 敏	JPN	JPN National	2:16:26
45	福島 康司	JPN	JPN National	2:23:25

個人総合成績

1	阿部 良之	JPN	Shimano	13:07:03
2	VAN DE WALLE Jurgen	BEL	Vlaanderen	13:07:05
3	真鍋 和幸	JPN	JPN National	13:08:22
5	今西 尚志	JPN	Shimano	13:08:43
9	野寺 秀徳	JPN	Shimano	13:09:00
10	飯島 誠	JPN	JPN National	13:09:04
15	狩野 智也	JPN	Shimano	13:09:04
19	岡崎 和也	JPN	JPN National	13:13:03
25	広瀬 敏	JPN	JPN National	13:19:04
27	中川康二郎	JPN	JPN National	13:21:22
30	福島 康司	JPN	JPN National	13:24:43
35	鈴木 真理	JPN	Shimano	13:27:45

団体総合成績

1	Shimano Racing Team	39:24:56
2	Japan National Team	39:26:40
3	City of Perth Cycling Team	39:26:51

ポイント賞

1	HOLLANDS Eddie	AUS	City of Perth	37 p
2	MCMURDO Hilton	AUS	City of Perth	32 p
3	SIJMENS Nico	BEL	Vlaanderen	30 p



競技大会 結果

チーム名等については略して記載

第36回全日本学生室内自転車競技選手権
(9/27-28 東京工業大学体育館)

サイクルサッカー

1	第一経済大学	浜・大松
2	東京工業大学	橋本・轡田
3	桃山学院大学	富田・田中

サイクルフットボール

1	永井 隆	東京工業大学	234.40 p
2	芝山 耕輔	東京工業大学	225.87 p

シクロクロス・レクジョンスリズ 第1戦

(10/19 北海道・長沼)

男子エリート

1	深谷 幸彦	TARGET	59:39
2	山田 夏樹	GAS・PANIC SP	1:00:39
3	沢田 雄一	サイクルマイト	1:02:56

男子U23

1	山本 和弘	キャノンデール・ジャパン	58:06
2	山本 聖吾	長野高専	1:00:37

女子エリート

1	福原 昌代	チームおとめ北海道大	50:02
---	-------	------------	-------

シクロクロス・レクジョンスリズ 第2戦

(11/2 富山・黒部)

男子エリート

1	辻浦 圭一	チームブリヂストン・アンカー	58:58
2	小坂 正則	スコー・キャノンデール	1:00:41
3	内山 靖樹	ミヤマビル	1:01:29

男子U23

1	山本 和弘	キャノンデール・ジャパン	1:01:18
2	飯塚 隆文	スコー・レシング	1:06:35
3	山本 聖吾	長野高専	-1Lap

女子エリート

1	真下 正美	シナック	41:56:00
2	唐見実世子	バイクシステム	43:31:00
3	酒井 真清	Be-One TIOGA	43:42:00

第2回全日本実業団サイクルロードレース石川

(11/3 福島・石川)

BR-1 (102.2km)

1	佐野 友哉	大阪 BSI	2:40:19.273
2	MunosGuillem	スコー ORBEA	2:40:21.777
3	新保 光起	JPCA 愛三工業	2:40:24.519
4	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:40:27.554
5	鈴木 太地	神奈川 ブリヂストン	2:40:29.414
6	清水 裕輔	埼玉 BSI	2:40:35.269
7	橋本 健	鹿児島 Vitesse	2:40:35.541
8	宮澤 崇史	長野 ブリヂストン	2:40:35.615
9	井上 和郎	福井 ブリヂストン	2:40:36.107
10	田中 光輝	愛知 愛三工業	2:40:36.141

BR-2 (68.0km)

1	佐野 淳哉	学連 BSI	1:49:20.301
2	班目真紀夫	福島 フィロ	1:49:33.578
3	大久保宣行	埼玉 フィロ	1:49:33.747
4	郷右近智久	東京 なるしま	1:49:33.777
5	宮下 星児	東京 自在	1:49:33.883
6	塚野 満	千葉 SPACE	1:49:34.406
7	森島 直人	愛知 Verdad	1:49:34.436
8	岩橋 賦	東京 YUKIRIN	1:49:34.593
9	宗政 昭弘	福岡 フィロ	1:49:34.600
10	山下 博幸	埼玉 リマックス	1:49:35.086

BR-3 (54.4km)

1	佐藤 力道	東京 イキッパ	1:27:59.211
2	新城 幸也	沖縄 BSI	1:27:59.567
3	江藤 真輔	東京 スポルビノ	1:28:05.428
4	Lee Scott	北海道 フィロ	1:28:05.432
5	山本 誠一	東京 SPACE	1:28:05.898
6	南 裕樹	神奈川 チームリマックス	1:28:05.900
7	山本 和之	静岡 SPADE・A1	1:28:05.987
8	堀内 武仁	山梨 スミタバ	1:28:06.370
9	富田 昌志	群馬 ミノシ市川	1:28:06.847
10	雨霧 吉則	奈良 ナカワ	1:28:06.879

ジュニア (61.42km)

1	中村 由広	学法石川高校	1:47:56.039
2	桐生 順平	学法石川高校	1:48:19.925
3	湯坐 純	東白川農商高	1:49:44.199
4	本間 慎吾	吉田高校	1:50:10.353
5	土屋 貴裕	山形電波工高	1:50:13.044
6	村上 純平	山形電波工高	1:50:17.287
7	我妻 敏	学法石川高校	1:50:19.654
8	兼平 純	紫波高校	1:50:19.847
9	関根 崇人	学法石川高校	1:50:20.745
10	猪狩 卓夫	平工業高校	1:50:20.970

女子 (47.8km)

1	大塚 歩	栃木 A+00	1:33:18.274
2	西 加南子	千葉 スミタバ	1:33:20.010
3	関家 朋子	東京 スミタバ	1:33:24.247
4	佐藤 智子	福島 ORBEA	1:33:25.238
5	小山美貴子	埼玉 ZELKOVA	1:33:28.972
6	山口麻理子	福井 BALBA	1:38:59.348
7	中山 朋子	神奈川 スミタバ	1:40:24.905
8	濱田 真子	東京 スミタバ	1:41:44.198

シクロクロス・レクジョンスリズ 第3戦

(11/8 長野・富士見)

男子エリート

1	辻浦 圭一	チームブリヂストン・アンカー	50:30
2	小坂 正則	スコー・キャノンデール・レシング	51:34
3	内山 靖樹	ミヤマビル	52:01

男子U23

1	山本 和弘	キャノンデール・ジャパン	52:21
2	飯塚 隆文	スコー・レシング	54:38
3	山本 聖吾	長野高専	55:10

女子エリート

1	唐見実世子	バイクシステムBRIDLER	45:50
2	酒井 真清	Testach Racing	47:21
3	志村みち子	日本アイランド あづみの	47:30



北津留 翼 WCCに入学



今年モスクで行われたジュニアトラック世界選手権で、堂々2種目(ケイリン・スプリント)で金メダルを獲得した北津留 翼(福岡・豊国学園高校3年生)が10月にWCC(ワールドサイクリングセンター:スイス)に入学した。留学期間は10月から来年4月上旬までの予定。
北津留は連盟トラック短距離の強化指定選手。

(財)日本体育協会公認C級スポーツ指導員養成講習会開催される

去る11月1日から3日まで標記前期講習が静岡県修善寺町の日本サイクルスポーツセンターおよび日本競輪学校において開催された。

全国より23名が参加し、実技、指導実習など20時間の講習を受講した。後期は11月22日から24日まで同会場にて行われる予定。



2003年世界室内自転車競技大会日本代表選手団

大会名 2003年世界室内自転車競技大会 大会場所 フランス・シルチゲム
大会期間 2003.11.21-11.23 派遣期間 2003.11.15-11.26
派遣選手団 <監督> 妙中 義之 <コーチ> 青戸 公一
<選手> サイカッカー 都築 勝巳・松田 鋼・宮本 武彦・木下 直也
サイクロフィリア 佐浦 裕行・芦田 史朗・堀井 和美・小野寺千春

2003日韓学生対抗自転車競技大会日本選手団

大会名 2003日韓学生対抗自転車競技大会
大会場所 大韓民国・全州市 全州自転車競技場(333.33m)
大会期間 2003.11.12 派遣期間 2003.11.10-11.14
派遣選手団 <団長> 高橋 耕作 <監督> 手嶋 敏光・折本 裕樹 <コーチ> 玉木 伸雄・塚崎 邦嗣
<選手> 盛 一大・屋良 朝晴・黒木 裕介・川村 崇・佐藤 佑一・守澤 太志・網谷 竜次・石川 雅望
菅田 老道・柴崎 敦・中村 珠藻・遠藤 友子・篠崎 新純・萩原麻由子・岡 希美

連盟の動き(10月中旬~11月上旬)

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 10月9日 UCI総会 | 於:カナダ・ハミルトン |
| 13日 JOCオリンピックフェスティバル | 於:東京・駒沢公園 |
| 20日 ACCトラックアジアカップ実行委員会 | 於:東京・京王閣競輪場 |
| 22日 チョンジュMBC国際ジュニアロード選手団出発 | 於:大韓民国(帰国 11/3) |
| 23日 ナショナルチーム強化合宿 | 於:国立スポーツ科学センター・日本CSC(~29日) |
| 25日 第2回アンチ・ドーピング作業部会 | 於:栃木・宇都宮 |
| 27日 経済産業省車両課公益補助金要望ヒヤリング | |
| 28日 ツール・ド・チャイナ選手団出発 | 於:中国(帰国 11/3) |
| 30日 第2回マウンテンバイク小委員会 | |
| 11月1日 平成15年度C級スポーツ指導員養成専門科目前期講習会 | 於:静岡・日本CSC他(~3日) |
| 5日 ACCトラックアジアカップ・タイ選手団出発 | 於:タイ(帰国 11/10) |
| 日本自転車振興会公益部補助金要望ヒヤリング | 於:日本自転車振興会 |
| 6日 第1回財政部会 | |
| 経済産業省車両課公益補助金要望ヒヤリング | |



シクリスムエコー No.103 2003年11月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟
 発行人/岩 楯 昭一
 編集人/加藤 昭
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内
 TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508
 URL http://www.jcf.or.jp/

JCF協賛スポンサー

